

アドニス[®]GT 箱粒剤

- 登録番号：第23687号
- 有効成分：クロラントラニプロール……0.75%
チフルザミド……3.0%
トリシクラゾール……4.0%
- 容 量：1kg入

■適用病害虫と使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
稲(箱育苗)	いもち病 紋枯病 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ ツマグロヨコバイ コブノメイガ ニカメイチュウ フタオビコヤガ	育苗箱 (30×60×3cm 使用土壌約 5ℓ) 1箱当り50g	移植3日前～当日	1回	育苗箱の上から 均一に散布する

クロラントラニプロールを含む 農薬の総使用回数	チフルザミドを含む 農薬の総使用回数	トリシクラゾールを含む 農薬の総使用回数
1回	3回以内(育苗箱散布は1回以内、 本田では2回以内)	4回以内(育苗箱への処理は1回以内、 本田では3回以内)

■使用上の注意事項

- 育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植してください。
- 葉の黄化、葉先枯れ等薬害を生じることもあるので、散布ムラがないよう均一に散布してください。
- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じるおそれがあるので注意してください。
- 稲苗の葉が濡れていると薬害を生じやすいので散布直前の灌水はしないでください。
- 移植後低温が続く苗の活着遅延が予想される場合は使用をさけてください。また、移植後極端な高温(30℃以上)が続くと予想される場合も使用をさけてください。
- 本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはいないに行ない、移植後田面が露出しないように注意してください。移植後直ちに入水し、水深2～3cm程度に保ち、極端な浅水や深水は薬害の原因となるのでさけてください。
- 深植では薬害を生じやすいので深植にならないように注意してください。

- 育苗箱の土壌が乾燥していて、苗を田植機に乗せる際、薬剤落下のおそれがある場合は散布後灌水してください。
- 本田が砂質土壌の水田や、漏水田、未熟堆肥多用田の場合は使用をさけてください。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

⚠安全使用上の注意事項

- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けてください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意してください。
- 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

本資料は2018年7月現在の登録内容に基づいています。



日産化学株式会社

東京都中央区日本橋二丁目5番1号
ホームページ <https://www.nissan-agro.net/>
お客様窓口 TEL.03-4463-8271 (9:00～17:30 土日祝日除く)

ADG-GLR2A



箱処理で、
移植後も守る!



アドニス[®]GT
箱粒剤

®は日産化学(株)の登録商標



稲育苗箱専用 殺虫殺菌剤

イネドロオイムシ



チョウ目害虫



いもち病



紋枯病

問題害虫も 2大病害も、 しっかり抑制。 アドニスGT箱粒剤、 登場!

あの、クロラントラニプロールを配合した、
水稻箱施用剤が登場! 育苗箱にまくだけで、
各種チョウ目害虫や抵抗性イネドロオイムシ
など、移植後に被害が問題となる害虫を長期
間抑制。さらに、稲の2大病害であるいもち
病や、紋枯病もしっかり予防できます。

悩ましい害虫被害を、長く抑える!

防除に定評のある殺虫成分「クロラントラニプロール」を配合しました。

2大病害の感染も、しっかり予防!

「トリシクラゾール」&「チフルザミド」配合で、いもち病や紋枯病も防ぎます。



クロラントラニプロール

〔抵抗性イネドロオイムシ・
各種チョウ目害虫に卓効〕

トリシクラゾール

〔いもち病に
優れた効果〕

チフルザミド

〔紋枯病を
長期間防ぐ〕

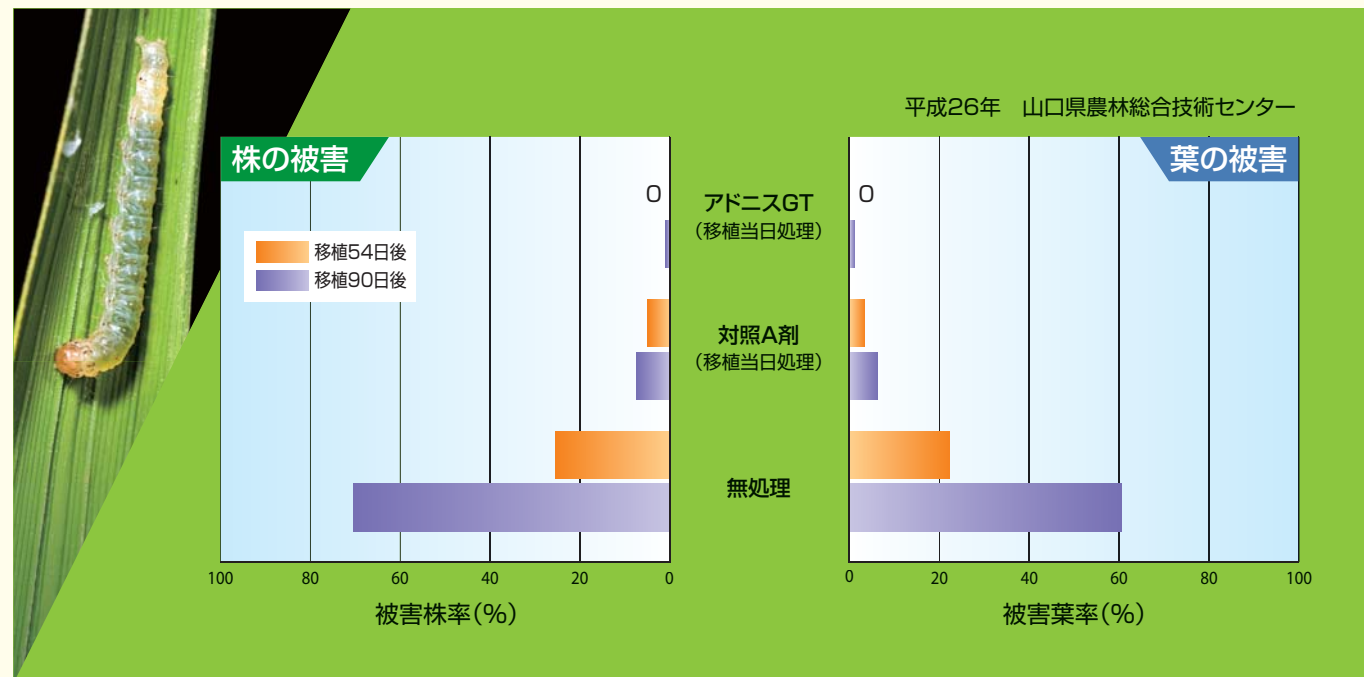
稲育苗箱専用 殺虫殺菌剤

アドニス[®]GT 箱粒剤



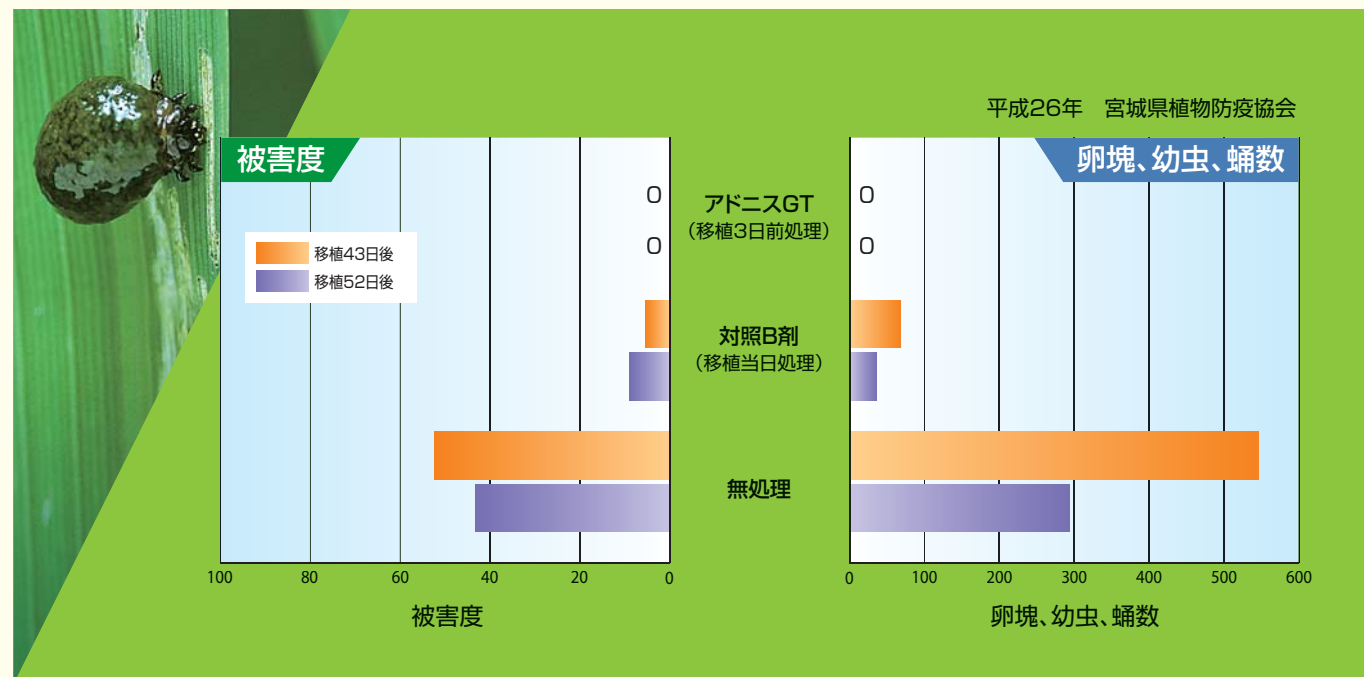
移植後の害虫被害も、病害感染も、しっかり予防。優れた効果は、試験でも証明されています。

■コブノメイガに対する防除効果



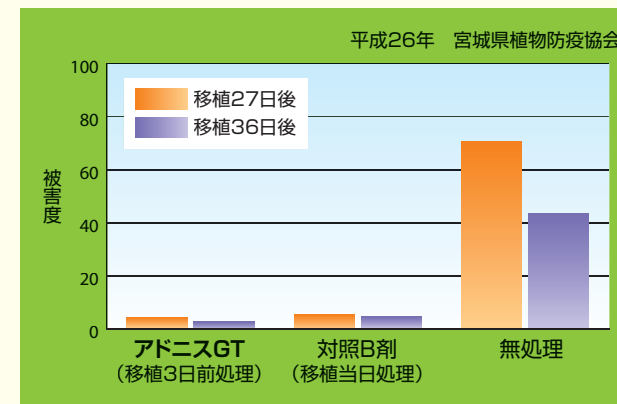
発生状況/第1世代:少,第2世代:少 品種/ヒノヒカリ
 播種日/5月27日 移植日/6月20日
 調査方法/1区72㎡・2区2連制、移植54日後、90日後各区50株の上位3葉の被害葉調査

■イネドロオウムシに対する防除効果



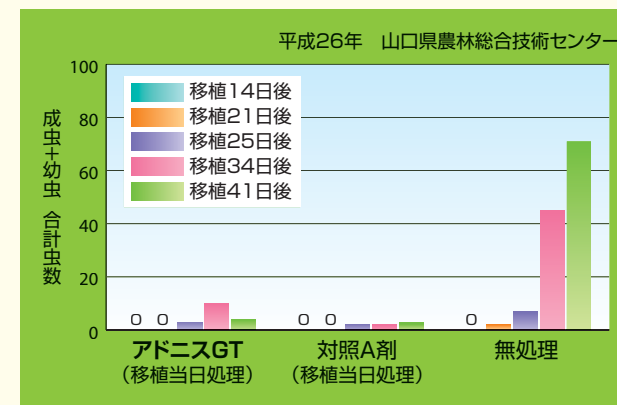
発生状況/中発生(放虫) 品種/ひとめぼれ 播種日/3月29日 移植日/5月5日
 調査方法/1区108~36㎡・1連制、300株/区調査
 被害度=(4A+3B+2C+D)/(調査株数×4)×100、A:食害葉率が51%以上の株数、
 B:食害葉率が31~50%、C:食害葉率が16~30%、D:食害葉率1~15%

■イネミズゾウムシに対する防除効果



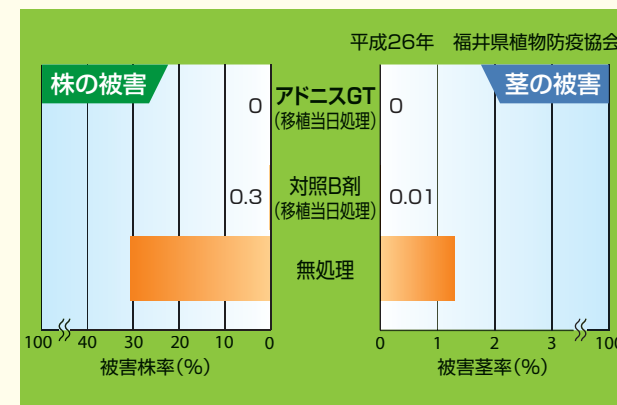
発生状況/中発生(放虫) 品種/ひとめぼれ 播種日/4月16日
 移植日/5月20日 調査方法/1区60㎡・1連制(調査は南北各50株)
 被害度=(3A+2B+C)/(調査株数×3)×100、A:食害葉率が61%以上の株数、
 B:食害葉率が31~60%の株数、C:食害葉率が30%以下の株数

■ツマグロヨコバイに対する防除効果



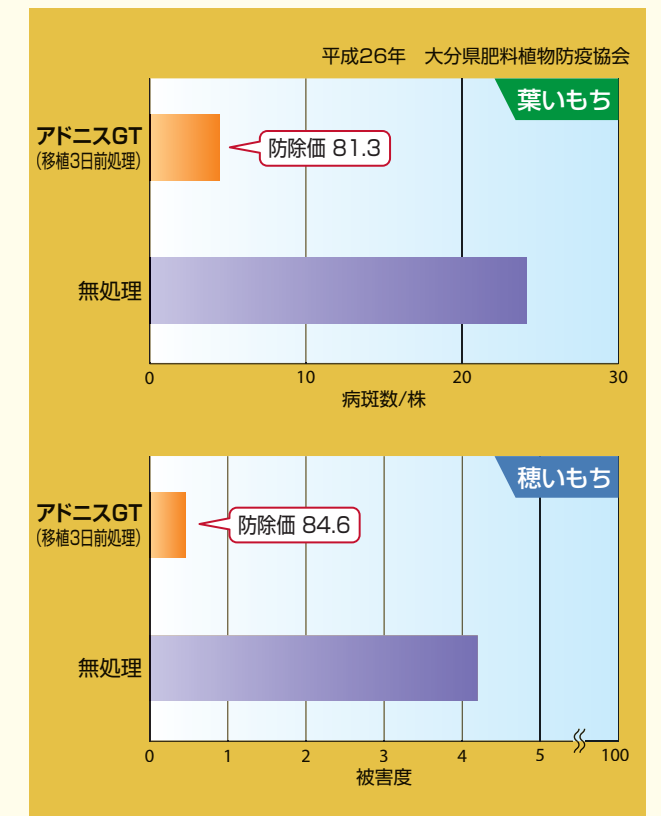
発生状況/少発生 品種/ヒノヒカリ 播種日/5月27日
 移植日/6月20日 区制・面積/1区72㎡・2区2連制
 調査方法/各区12株見取り調査

■ニカメイチュウに対する防除効果



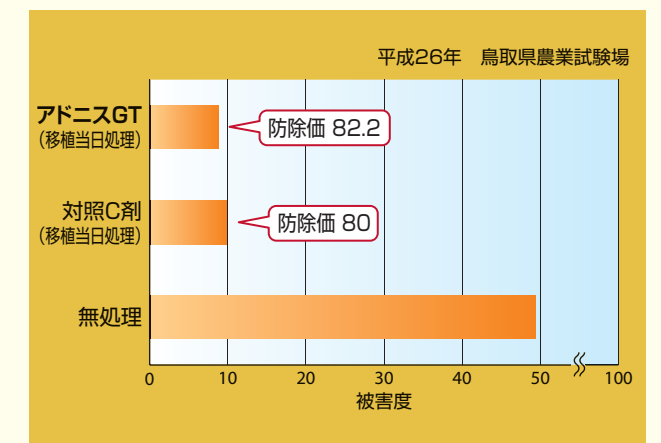
発生状況/中発生(第1世代) 品種/ハナエチゼン
 播種日/4月12日 移植日/5月6日
 調査方法/1区360㎡・1連制、移植73日後300株/区で心枯茎数を調査

■いもち病に対する防除効果



発生状況/葉いもち:中,穂いもち:少 品種/ヒノヒカリ
 播種日/5月15日 移植日/6月11日
 調査方法/1区30㎡・3連制、葉いもち:1区50株調査3連
 発病株数と病斑数/株、穂いもち:1区50株調査3連
 発病株率と発病穂数を程度別調査、被害度=発病穂首率+(1/3以上枝梗発病穂率×0.66)+(1/3以下枝梗発病穂率×0.26)

■紋枯病に対する防除効果



発生状況/多発生(接種) 品種/きぬむすめ
 播種日/5月7日 移植日/5月27日
 調査方法/1区18㎡・3連制、各区100株3連、全体の被害度から防除値を算出
 9月12日調査、全体の被害度=発病株の被害度×発病株率/100、移植104日後
 に第3葉以上に発病のある株を発病株として発病株率調査、発病株の被害度=
 1.62×病斑高率-32.4、病斑高率=最上位病斑高(cm)/草丈(cm)